

# CFO FORUM Japan

Chief Financial Officer

## 第9回 CFOフォーラム・ジャパン2009

# “Post Crisis Innovation”

## 世界経済危機後の新しい資本主義の秩序構築に向けた日本型経営システムの革新

**東京会場**  
 日時：2009年12月10日(木) 9:00～17:45 (8:30開場)  
 会場：経団連会館(東京・千代田区)

**大阪会場**  
 日時：2009年12月15日(火) 13:00～18:30 (12:30開場)  
 会場：ホテルニューオータニ大阪(大阪・中央区)

【主催】  
**日本CFO協会**  
 Japan Association for Chief Financial Officers  
 東京都千代田区平河町2-7-1塩崎ビル2F  
<http://www.cfo.jp/>

【特別協力】  
**社団法人 金融財政事情研究会**  
 Kinzai Institute for Financial Affairs, Inc.  
 東京都新宿区南元町19  
<http://www.kinzai.or.jp/>



### 参加要領

	東京会場	大阪会場
日 時	2009年12月10日(木) 9:00-17:45 (8:30 開場)	2009年12月15日(火) 13:00-18:30 (12:30 開場)
定 員	300名	150名
受 講 料	一般：29,400円 会員：22,000円 (日本CFO協会会員、FE-ITフォーラム会員)	一般：17,640円 会員：13,230円 (日本CFO協会会員、FE-ITフォーラム会員)
会 場	経団連会館2F 国際会議場、経団連ホール	ホテルニューオータニ大阪 B1F アイリス
	 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 TEL: 03-6741-0222 FAX: 03-6741-0233 ■交通のご案内 ●徒歩で：東京メトロ 各線大手町駅下車 C2b出口直結、JR 東京駅下車 丸の内北口より約10分 ●お車で：新宿駅より約20分、品川駅より約25分、羽田空港より約30分(有料道路使用)	 〒540-8578 大阪市中央区城見1-4-1 TEL: 06-6941-1111 FAX: 06-6941-9769 ■交通のご案内 ●徒歩で：JR大阪環状線 大阪城公園駅下車 約3分、地下鉄長堀鶴見緑地線 大阪ビジネスパーク駅下車 約3分、各線 京橋駅より約8分 ●お車で：梅田より約15分、淀屋橋より約10分、本町より約15分、難波より約20分、大阪国際空港(伊丹)より約30分、関西国際空港より約60分、阪神高速東大阪線東行き法円坂ランプから約5分、阪神高速東大阪線西行き森之宮ランプから約8分
申込締切	2009年12月1日(火) ※12月1日(火)までにキャンセルのご連絡がない場合、ご請求させていただきますのでご注意ください。	
主な対象者	(一般事業法人) 経営幹部、CFO、財務担当役員、財務部長、財務担当マネージャー、(金融機関) 経営幹部、法人担当役員、法人担当マネージャー	
特 典	フォーラム参加者には経営財務情報誌「CFO FORUM」の最新号を無料進呈します。	
お 願 い	●レコーダーなどの記録機器の持込みはご遠慮ください。 ●テキスト、資料等は当日会場でお渡しいたします。参加者以外の方にはお頒けいたしません。 ●参加される方のご都合が悪い場合は、代理の方のご出席をご考慮願います。	
聴 講 証	聴講証は、当日会場受付にてお渡しいたします。	
	<b>お申込はこちらまで <a href="http://www.cfo.jp/">http://www.cfo.jp/</a></b> (本フォーラムのお申込みはオンライン申込に限らせていただきます)	
お問合せ先	●企画内容・お申込についてのお問合せ先 日本 CFO 協会事務局 TEL：03-3556-2334 FAX：03-3556-2320 E-mail：seminar@cfo.jp	●請求書についてのお問合せ先 社団法人 金融財政事情研究会 TEL：03-3358-0018 FAX：03-3359-7947 E-mail：jimu-seminar@kinzai.or.jp



### 昼食会 CFOランチョン(東京会場)

12:50-13:30 ランチョン・スピーチ 特別ゲスト

プロゴルファー

## 中嶋 常幸 氏

# スランプを宝にかえて

プロ選手として歩んだゴルフ人生のスランプと海外試合



中嶋 常幸 (なかじま つねゆき)氏  
 小学校時代からゴルフをはじめ、10代で「全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権」(72年)、「日本アマチュアゴルフ選手権」(73年)で優勝し、75年にプロ転向。青木功氏、尾崎将司氏とともに男子ツアーを牽引して黄金期を支えたほか、世界4大メジャーですべてベスト10入りしている日本人唯一のプレイヤー。これまでにレギュラーツアー48勝、その他11勝、シニアツアー4勝と、優勝回数は63勝を記録している。現在もレギュラー、シニア両ツアーで活躍中。(主な戦績)日本プロ優勝1977年、1983年、1984年/日本シリーズ優勝1982年、1993年/日本プロマッチプレー優勝1983年、1986年、1992年/日本オープン優勝1985年、1986年、1990年、1991年/日本シニアオープン優勝2005年、2006年、2008年/日本シニア優勝2006年、なお賞金ランキング1位は4回にわたって獲得。またアマチュアを含め日本と名前がつく全てのトーナメントを制覇し八冠に輝く。

### CFO 講演

これからのグローバル経営の方向性とCFOの役割

わが国最大規模のM&Aとその後の経営の経験をもとに

2度の大規模買収(1999年、2007年)を活用し、既に連結利益(EBITDA)の過半を産み出すに至った。JTの海外たばこ事業のこれまでの歩みを説明する。その後、2007年のギャラハー社買収・統合、そして、統合後の経営を通じて考える、日本企業にとってのこれからのグローバル経営の方向性とCFOの役割について論じる。

**新貝 康司 (しんがい やすし)氏**  
 日本たばこ産業 取締役  
 Japan Tobacco International, SA  
 副社長 副 CEO

1980年、京都大学大学院電子工学課程修士課程修了後、専売公社(現JT)へ入社。たばこの工場現場を経験後、経営企画部で企業買収案件に従事、1989年、同社ニューヨーク事務所所長代理、1990年JT America Inc. 社長に就任。以後6年にわたり、抗HIV薬Viraceptの開発等、米国製薬・バイオベンチャーとの数々の共同研究開発提案案件を発掘する。1991年からは米国NASDAQ上場バイオベンチャーの共同研究開発提案案件を発掘する。

チャー企業Cell Genesys, Inc. 社外取締役を兼任。1996年、JT本社に戻り、経営企画部部長として中期経営計画、企業変革プログラム、企業買収プロジェクト(鳥居薬品、旧RJRI International)等、全社経営企画業務を担当。2001年、JT財務企画部長に就任。全社の中期経営計画、経営管理、財務戦略を担当。企業買収、事業売却も手がける。2004年、JT執行役員財務責任者(CFO)に就任。経営管理、財務戦略、財務会計、資金管理、税務等、全社の財務機能を統括し、不動産、BD責任者(全社M&A統括)も担務。2005年、JT取締役(現任)に就任。2006年、日本、中国以外のたばこ事業の世界本社であるJapan Tobacco International社(ジュネーブ)の副社長(現任)、副CEO(現任)に就任。ギャラハー社買収と統合を指揮。現在に至る。2008年1月から2009年9月までの間、ギャラハー社統合の為にJapan Tobacco International社の最高財務責任者も兼任。

### 特別講演

新たなグローバル時代に対応するCFO組織の構築

財務会計基準の国際的統一が企業経営に与える影響

未曾有の世界経済・金融危機から一年以上が経過した現在、偶然か必然か国際会計基準(IFRS)の適用問題が日本企業を襲っている。「原則主義」によるアプローチをはじめとして企業会計の考え方を根本から変えることを要求しており、単なる経理部門の問題として矮小化して捉えると本質を見誤る。会計処理がどのように変わるのか、システムをどうするのかという会計技術の問題も重要だが、バブル崩壊以降のコスト削減・人員削減によって弱体化している財務・会計部門を如何に建て直し対処していくべきか、経営トップの重要課題として方向性を明確にし、指示することが不可欠である。会計監査人としてだけではなく日米の事業会社のCFOとしての実務経験をふまえ、IFRSを切り口にして財務管理体制(CFO機能)はどうあるべきかを考えてみたいと思う。

**石田 正 (いしだ ただし)氏**  
 公認会計士

1974年から1996年まで、アーンストアンドヤング及び朝日監査法人(現:あずさ監査法人)において日本及び米国基準の会計監査業務に従事、代表社員。監査法人在籍中に通算10年間、業務提携先である大手会計事務所シンガポール及びロンドン事務所に出向し、東南アジア及び欧州日系企業部門の統括責任者。1996年から2008年まで日本マクドナルド株式会社代表取締役副社長(CFO)及びセガサミーホールディングス株式会社専務取締役(CFO)を歴任。公認会計士。



# “Post Crisis Innovation”

## 世界経済危機後の新しい資本主義の秩序構築に向けた日本型経営システムの革新

戦後はじめて世界中の経済がプラス成長を達成し、グローバリゼーションと自由競争による繁栄に酔っていた2005年という記念すべき年からわずか3年後、繁栄のお手本とされた米国型資本主義は、今回の危機の克服を踏まえた新たな資本主義の展開に向け、大きな転換点を迎えております。経済・金融危機そのものは正常化に向けて進んでいるとはいうものの、この価値観の逆転が今後どのようにに收拾され、次世代の経済・金融秩序が構築されるのか、現状では誰も正確に予想できない状況にあります。

しかし、これまで規制緩和に向かっていった世界の流れは大きく向きを変え、規制強化へと向かうことは避けられません。欧米に比べてグローバリゼーションへの対応や自由化への取り組みが遅れていた日本は、比較的金融危機のダメージが少なかったとはいうものの、世界の保護主義化の流れの中で引き続きグローバリゼーションに乗り遅れてしまうようでは、今後も弱まることのない熾烈な国際競争の中で大きな痛手を被ることになるでしょう。

グローバル化を前提とした成長戦略を進めていくために、会計基準をはじめとしたルールの国際標準化に対応するのみならず、CFOをはじめとする財務部門はリスクマネジメント手法の強化を急がなければなりません。

今年度第9回となるCFOフォーラム・ジャパンでは、ポスト・クライシス・イノベーションをキーワードに、これからの日本企業の経営の在り方、経営システムの革新を支える様々な概念や経営技術、テクノロジーをご提供していきたいと考えております。


是非、フォーラムの趣旨にご賛同頂き、貴社のもつ最先端の知識と技術、そして何よりも革新を支援するエネルギーをご提供いただきたく宜しくお願い申し上げます。

2009年11月  
日本CFO協会 理事長 行天 豊雄  
社団法人 金融財政事情研究会 理事長 山口 公生

2009.12.10 東京会場プログラム	
8:30	開場
9:15-10:05	新しい資本主義の秩序構築と日本型経営システムの革新 基調講演 加護野 忠男 氏 神戸大学大学院 経営学研究所 教授
10:05-10:55	これからのグローバル経営の方向性とCFOの役割 CFO講演 わが国最大規模のM&Aとその後の経営の経験をもとに 新貝 康司 氏 日本たばこ産業 取締役 Japan Tobacco International, SA 副社長 副CEO
11:10-12:10	プロフェッショナル・セッション <2会場> 分科会 1 2会場に分かれ、財務会計、経営会計、企業財務、ITマネジメントなど専門セッションを開催
12:20-13:30	昼食会：CFOランチョンスピーチ
13:40-14:40	プロフェッショナル・セッション <2会場> 分科会 2 2会場に分かれ専門セッションを開催
14:50-15:40	プロフェッショナル・セッション <2会場> 分科会 3 2会場に分かれ専門セッションを開催
15:50-16:40	プロフェッショナル・セッション <2会場> 分科会 4 2会場に分かれ専門セッションを開催
16:55-17:45	新たなグローバル時代に対応するCFO組織の構築 特別講演 財務会計基準の国際的統一が企業経営に与える影響 石田 正 氏 公認会計士



注意：プログラムの内容は事前のご案内無く変更となる場合がありますことをご了承ください。


基調講演	
新しい資本主義の秩序構築と日本型経営システムの革新	
グローバリゼーションのもとで加速した金融資本主義の世界覇権が、逆に今度は世界経済に危機を招く結果となった。幸いなことに欧米対比周回遅れとなっていた日本は直接的な金融危機に直面はしなかったとはいうものの、米国の過剰消費を前提としていた成長モデルが崩壊したことにより、今や日本企業の経営戦略が根底から揺らぐこととなった。既に、経営の基盤となる様々な法的枠組み・経済システムは米国資本主義をモデルとしたシステムへと変容しており、さらには企業経営者、投資家をはじめとした社会的なモラルの低下も露呈している。未曾有の危機を契機に、資本主義経済とは何か、企業経営とは何かという本質をとらえ直し、今後の課題を考える。	
加護野 忠男 (かごの ただお) 氏 神戸大学大学院 経営学研究所 教授	大阪府出身。1970年、神戸大学経営学部卒業。72年、神戸大学大学院経営学研究所修士課程を修了後、79年よりハーバードビジネススクールに留学。88年、神戸大学経営学部教授、その後89年に経営学博士取得し、99年より現職。現在、NTN社外監査役、参事製薬社外監査役、住友ゴム工業社外監査役、積水ハウスCSR委員会委員(2005年～)、独立行政法人中小企業基盤整備機構外部評価分科会臨時委員も務める。主な著作に「日本企業の多角化戦略」(日本経済新聞社、81年、日本経済新聞社経済図書文化賞受賞)、「日本型経営の復権」(PHP研究所、97年)、「ゼミナール経営学入門」(共著、日本経済新聞社、03年)、「競争優位のシステム」(PHP研究所、99年)など。

東京分科会 (選択制・先着順)	
第1 / 11:10-12:10	
経団連ホール・北	IFRS導入を見据えた経理部門の人材・組織の拡充手法 インソーシング/アウトソーシングの使い分け IFRSの導入に際し、企業が備えるべき人材・体制について、これまで以上に質的・量的な拡充が求められる。今後、経営管理、決算や経理の実務、および内部統制の運用等に求められる人材要件を明らかにし、それら人材の育成、調達手法について提言する。
	吾郷 周三 (あごう しゅうぞう) 氏 アビコムコンサルティング プロセス&テクノロジー事業部 FMCセクター J-SOX/After J-SOX Initiative ディレクター 金商法に基づく内部統制報告制度に対応して、鉱業、運輸業等の企業において、内部統制の整備、可視化、および評価についてコンサルティングサービスを実施中。制度適用2年度以降、リスク・アプローチに沿って企業にとって真に効果的で効率的な評価作業体制を確立いただけるよう、内部統制評価作業の代行サービスを展開中。
IFRS時代のグループ経営管理基盤 ITがもたらすパラダイムシフト 財務マネジメント・サーベイ「CFOからみたIT・情報システムの現状と課題」(CFO FORUM 第30号)で浮き彫りになったITへの課題と期待。IFRSに代表される規制への対応と企業の成長を支える新経営システム構築に向け、ITはどのように活用できるのか、同サーベイの筆者が提案する。	
経団連ホール・南	桜本 利幸 (さくらもと としゆき) 氏 日本オラル アプリケーション事業統括本部 担当ディレクター 公認システム監査人 / ITコーディネータ 法政大学大学院 兼任講師 / 日本CFO協会主任研究委員 都市銀行を経て1998年に日本オラルに入社。会計、財務、資金、経営管理分野を中心としたERP導入による経営改革、BPRコンサルタント、導入プロジェクトマネージャー、マーケティングを担当後、現在はIFRS、内部統制、パフォーマンス・マネジメントなど会計関連ソリューションのビジネス開発、推進に従事。









2009.12.15 大阪会場プログラム	
12:30	開場
13:10-14:00	新しい資本主義の秩序構築と日本型経営システムの革新 基調講演 加護野 忠男 氏 神戸大学大学院 経営学研究所 教授
14:00-14:50	プロフェッショナル・セッション 1 専門セッションを開催
15:05-15:45	プロフェッショナル・セッション 2 専門セッションを開催
15:45-16:25	プロフェッショナル・セッション 3 専門セッションを開催
16:40-17:30	新たなグローバル時代に対応するCFO組織の構築 特別講演 財務会計基準の国際的統一が企業経営に与える影響 石田 正 氏 公認会計士
17:30-18:30	懇親会



注意：プログラムの内容は事前のご案内無く変更となる場合がありますことをご了承ください。



第2 / 13:40-14:40	
SAPジャパン及びSAPグループのIFRS対応の実態 ドイツに本社を置き、ドイツとアメリカの両国に上場しているSAPは、2004年にIFRS導入プロジェクトを始動し、2007年からIFRSでの財務諸表開示を行ってきた。本セッションではグローバルに事業を展開するSAPグループのIFRSへの取り組みと、そこから得られたノウハウなどについてご紹介する。	
	井野 勢津子 (いの せつこ) 氏 SAP ジャパン 代表取締役最高財務責任者 京大卒業後、ハーバードビジネススクールにてMBA取得。1994年ベプシコーラ(米国)入社。その後、米国にて販売、財務等のマネージャを歴任。2003年6月サン・マイクロシステムズ東京支社、取締役経理財務本部長を経て2006年11月SAPジャパン シニア・バイスプレジデント & CFO、2008年1月より現職。
日本企業の競争力を高める「連邦連結経営」 IFRS対応を機会に転じる、新しいグループ経営のあり方 2000年度の連結決算制度の導入から10年。日本企業のグループ経営レベルは、果たして向上したのだろうか。内部統制のみならず、会計基準としてIFRSの強制適用がさざやかされる今、連結決算経営から真のグループ連結経営への変革が必要である。米国を中心としたグローバル経営モデルにとらわれない、日本企業グループの能力を最大限に生かす経営について解説する。	
	渡邊 達雄 (わたなべ たつお) 氏 シグマクシス パートナー 国内大手監査法人系コンサルティング会社を経て、1996年に現IBMビジネスコンサルティングサービスに入社。グループ経営、財務会計、リスクマネジメント領域のサービスにおける責任者を歴任し、2004年日本IBMにてBTO事業ソリューションパートナーなどを歴任。2009年2月より現職。著書に「会計イノベーション」(日経BP社)、「企業変革のためのアウトソーシング」(東洋経済)など。

大阪分科会	
セッション 1 / 14:00-14:50	
IFRS時代のグループ経営管理基盤 ITがもたらすパラダイムシフト 財務マネジメント・サーベイ「CFOからみたIT・情報システムの現状と課題」(CFO FORUM 第30号)で浮き彫りになったITへの課題と期待。IFRSに代表される規制への対応と企業の成長を支える新経営システム構築に向け、ITはどのように活用できるのか、同サーベイの筆者が提案する。	
	桜本 利幸 (さくらもと としゆき) 氏 日本オラル アプリケーション事業統括本部 担当ディレクター 公認システム監査人 / ITコーディネータ 法政大学大学院 兼任講師 / 日本CFO協会主任研究委員 都市銀行を経て1998年に日本オラルに入社。会計、財務、資金、経営管理分野を中心としたERP導入による経営改革、BPRコンサルタント、導入プロジェクトマネージャー、マーケティングを担当後、現在はIFRS、内部統制、パフォーマンス・マネジメントなど会計関連ソリューションのビジネス開発、推進に従事。

※大阪会場は選択はございません。

協賛企業	
リード・スポンサー	プラチナ・スポンサー
	
	
	
	

第3 / 14:50-15:40	
伸縮自在な経営とIFRS 好況/不況に合わせた伸縮自在な経営(エラスティック経営)を支える仕組みとしてのIFRSとは? 新興国の成長は下方修正されても依然強く、世界は相互供給・依存した多極化が進む。今後も好況/不況は繰り返され、それに対して弾力性を持って耐える伸縮自在な経営(エラスティック経営)が求められる。この流れの中でグローバル統一基準であるIFRSを使って、いかに機を逃さない、足腰を鍛えた経営を実現するか解説する。	
	嶋中 洋一郎 (はたなか よういちろう) 氏 アクセンチュア 経営コンサルティング本部 財務・経営管理グループ パートナー 慶応義塾大学商学部卒業。ハイテク、通信、電力/ガス、化学、航空運輸など幅広い業種で、グローバル連結経営、IFRS対応、経理改革、シェアードサービス化、内部統制、リスク管理、企業統合対応に関するコンサルティングに従事。神戸大学大学院経営学研究所客員教授。早稲田大学大学院会計研究科非常勤講師。
日本型人材戦略の革新 IFRS導入などの企業プロジェクト成功の為に人材戦略の構築 いわゆる日本の経営システムの特徴と言われていた終身雇用や年功序列の賃金体系、また議論を呼んでいる正社員・非正社員の問題について考察を行い、経済環境の変化も踏まえたよりよい人材戦略の考え方について提案を行う。	
	植田 比呂志 (うえだ ひろし) 氏 リソース・グローバル・プロフェッショナル・ジャパン リジョナル・マネージング・ディレクター 米国大手会計事務所ロサンゼルスオフィス、外資系投資銀行M&Aおよび不動産部門を経て、2004年リソース・グローバル・プロフェッショナル日本法人を設立し代表取締役後任に就任。早稲田大学理工学部卒、デンバー大学MBA、コールデンゲート大学院修了。米国カリフォルニア州公認会計士。

第4 / 15:50-16:40	
CFO Talent Challenge CFO組織のグローバルタレントマネジメント グローバル化の新たな局面への対応に迫られる日本企業において、CFO組織(財務・経理部門)が期待される役割を果たしていく上でポイントとなり、CFO組織を効率的かつ効果的に機能させるための4つのイネーブラー(基本要素)の中でも最も重要な「タレントマネジメント」について解説する。	
	日置 圭介 (ひおき けいすけ) 氏 デロイト トーマツ コンサルティング CFOサービス シニアマネジャー 大手外資系コンサルティング会社を経て、2007年より現職。電機、自動車などの製造業を中心とした多業界の企業に対し、CFO組織のビジョン策定、SSC等を活用したCFO組織変革、経理・経営管理PMI(Post Merger Integration)、予算・組織業績評価制度の構築等、経営管理領域におけるプロジェクトを幅広く手がけている。
経理・財務/経営企画部門のIT活用の現状とあるべき理想像 “Excel 2010”で実現するパフォーマンスマネージメントシステム 企業の継続的成長のためには、経営管理と現場実践が継ぎ目なく連携した、統制のとれた戦略実践が必要である。本セッションでは、Excelを拡張し全社PDCAを促進するパフォーマンスマネージメントソリューションを解説する。	
	福与 直也 (ふくよ なおや) 氏 マイクロソフト エンタープライズビジネス部 BIソリューションスペシャリスト 2002年12月にマイクロソフトに入社し、以来、マイクロソフトのビジネスインテリジェンスソリューションのスペシャリストとして、さまざまなプロジェクトに参画。金融業、製造業、流通業、公共事業、通信業など、業種を問わず、さまざまなBIシステムの案件に従事。